

## 糖尿病チームにおける臨床検査技師の役割

◎加藤 康男<sup>1)</sup>  
福岡赤十字病院<sup>1)</sup>

臨床検査技師が関わる医療チームとしては、感染制御チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、糖尿病療養指導チームなどが広く知られているが、果たしてチームにおいて我々の働きは、期待に充分に応えられているのか甚だ疑問である。今回、当院の糖尿病指導チームにおける臨床検査技師の稼働状況を紹介し、現在の問題点と今後の課題について考察する。

当院は、福岡市にある511床の急性期総合病院で、糖尿病内科には、約2,000人の患者が来院されている。日本糖尿病学会の認定施設であり、1970年（昭和45年）以来、糖尿病教室の運営を続けている。2015年からは血糖認識トレーニング（BGAT）教室を全国的にも早く立ち上げ、現在では、2016年に更新した7日間教室との2本柱となっている。また、血糖自己測定（SMBG）においては、機器の発注、在庫管理、患者への指導、機器トラブルへの対応など、ほぼすべての運営を検査技師がおこなっている。他には、CGM（連続グルコースモニタリングシステム）検査を2012年より開始しているが、本年の7月からはフリースタイルリブレを導入し、患者への指導は検査技師が担当することになった。

糖尿病療養指導士としては、院内だけではなく、患者会や地域の活動（講演会、ウォーク大会、血糖測定、ブルーライトアップなど）にも積極的に参加している。

今後の課題としては、糖尿病を取り巻く環境は、高齢者HbA1c目標値の改訂、新薬の開発、新検査機器の登場など、他領域に比べても著しい変化が起きており、それに対応した療養指導が求められている。特に、高齢化社会における糖尿病患者の療養指導にはまだ多くの課題が残されている。喫緊の取り組みとしては、SMBG機の保守点検があるが、これは臨床検査技師の重要な業務のひとつであり、我々の存在意義が高まる業務となるものと信じている。

福岡赤十字病院検査部 092-521-1211（内8196）